

研究課題 終了時評価結果概要一覧

番号	課題名	研究主体	研究期間	総事業費 (見込)	研究目標	課題概要	評価概要	評価結果
1	【技術でつなぐバリューチェーン】 ゲノム情報を活用した農産物の次世代生産基盤技術の開発プロジェクトのうち、画期的な農畜産物作出のためのゲノム情報データベースの整備	民間団体等	平成23年度 ～ 平成27年度	14億円	・ゲノム断片整列化機能のウェブでのサービス提供。大量データ統計解析による新規有用遺伝子予測機能の構築と解析支援 ・農畜産物ゲノム情報データベースの稼働率99%、年間訪問数30万件以上を最終年度まで維持	・これまで蓄積された多様な遺伝資源やゲノム情報の活用の幅を広げ、画期的な農畜産物の作出を進めるための研究基盤を確立するものとして、次世代シーケンサーから生み出される大量かつ複雑な塩基配列情報を高速・高精度でつなぎ合わせて整理するゲノム断片整列化機能や、整理されたゲノム塩基配列中から未確認の遺伝子の存在を予測する新規有用遺伝子予測機能を開発するとともに、農畜産物のゲノム情報やDNAマーカー情報を統合してデータベースを構築・公開し、利用しやすい形で大学や民間企業等の研究者に提供する。	・本研究において、AgrisID（農畜産物ゲノムデータベース）が開発・公開されるなど、着実に成果と実績が得られていることを評価する。また、本事業で開発されたデータベースを、機能性の成分の開発などにも活用されることを期待する。 ・データベースの公開のあり方について、知的財産の観点も含めて検討する必要がある。また、ゲノム情報を使いこなせるような人材の育成等についても検討し、最終的なアウトカム目標に到達することを期待する。	概ね目的を達成した。
2	【技術でつなぐバリューチェーン構築のための研究開発】 地域資源を活用した再生可能エネルギー等の利活用技術の開発のうち、地域バイオマス資源を活用したバイオ燃料及び化学製品の製造技術の開発	民間団体等	平成24年度 ～ 平成27年度	15億円	・草本利用したバイオエタノール低コスト・安定供給技術の開発(コスト目標:100円／L) ・木質残材を原料に林内でバイオ燃料製造する技術の開発(コスト目標:80円／L) ・木質リグニンから化学製品を低コストで製造する技術の開発(市場流通可能な製品の開発) ・微細藻類を利用した石油代替燃料等の製造技術の開発(コスト目標:80円／L)	・農山漁村で豊富に得られる草本、木質、微細藻類等のバイオマスからバイオ燃料や化学製品等を低コストで製造するための技術の開発を行う。	・本研究は、我が国のみならず国際的にも重要な課題であり、要素技術の開発については、全体的に順調に進められており、一段とレベルの高い実用技術の完成を期待する。 ・バイオマスの研究は他省庁でも行われているが、農水省だからこそできたことを整理する必要がある。 ・本事業で開発された技術をどのように民間企業等に橋渡ししていくのか検討する必要がある。	概ね目的を達成した。

研究制度 終了時評価結果概要一覧

番号	制度名	研究主体	研究期間	総事業費 (見込)	制度目標	制度概要	評価概要	評価結果
1	レギュラトリーサイエンス新技術開発事業	民間団体等	平成22年度 ～ 平成27年度	14億円	・行政措置を講ずる必要がある食品中の危害要因(有害化学物質、有害微生物)、動物疾病及び植物病害虫について、現場で活用可能な分析手法やリスク低減技術、診断法等を開発し、食品の安全性を向上させるとともに、動植物疾病の侵入・まん延防止することにより、安全な農畜水産物及び食品の安定供給を図る。	・安全な農畜水産物及び食品を安定的に供給していくためには、生産から消費にわたって食品の安全性向上のための措置や、食料の安定供給に資するよう、動物の伝染性疾病や植物病害虫の国内への侵入防止、発生予防、まん延防止等の措置を、国際的な取組を参考にしつつ、科学的根拠に基づいて的確に実施することが重要である。本事業では、このような措置を適切に実施するための科学的根拠を得るために必要な研究(レギュラトリーサイエンス:科学的知見と規制や行政措置の橋渡しとなる科学)を実施することにより、食品安全、動物衛生及び植物防疫に関する施策を更に推進することを目的とする。	・本事業は、食品の安全、安定供給のために重要な研究制度であり、予想以上の成果をあげており、事業終了後も継続して取り組むことを期待する。今後、事業を継続して取り組む際は、公募の期間や時期など必要があれば改善して、よりよい形で推進することを期待する。 ・本事業の成果として得られた科学的エビデンスが、国内での規制等だけでなく、国際的な規制等の議論の際にも活用する必要がある。	予想以上の成果をあげた。